

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 特進コース (理系)、看護医療進学コース						
教科書	東京書籍 化学 Vol.1 理論編 東京書籍 化学 Vol.2 物質編 ※2年次の教科書を引き続き使用		副 教 材	東京書籍 ニューステップアップ 化学 ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目 の 概 要	2学年の「化学」の学習に引き続き、化学平衡から、無機化合物、高分子化合物を扱い、日常生活や社会にこれらの物質の性質がどのように活かされているかを理解する。 1. 化学平衡を学び、化学の反応が現実にはダイナミックに進行していることを理解し、化学的な見方を身につける。 2. 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、通常の生活の中に応用されていることを理解する。 3. 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察する。			知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。			
				評価 の 観 点	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授 業 内 容	1 学期 第2編 第4章化学平衡 第3編 無機物質			学 習 方 法	理科の勉強で一番必要なことは、様々な現象に興味を持ち、探求し、理解していくこと。自分の手と頭を使い探求するとともに、クラスのメンバーとの討議を通して、様々な観点から理解を深めること。また自宅での学習も大切である。 授業中に分からない事があれば、後回しにせず、その場で聞くか、授業終了後にすぐに担当の先生に聞くようにする。		
	2 学期 第4編 有機化合物				備 考		
3 学期 第5編 高分子化合物							

教科	理科	科目	生物	単位数	3	学年	3	
学科 ・ レーン	普通科 特進コース (理系)							
教科書	数研 改訂版 生物 ※2年次の教科書を引き続き使用		副教材	・数研出版 リードα 生物基礎+生物 ※2年次の副教材を引き続き使用 ・数研出版 大学入試共通テスト対策チェック&演習生物				
科目 の 概 要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。 適宜、共通テストを中心とした入試問題の演習を行い、問題を解く力を付けていく。			評価の観点 知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。				
				評価方法 定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。				
授業 内 容	1学期 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答			学習方法 授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。				
	2学期 第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化							
	3学期 第9章 生物の系統			備考				

教科	理科	科目	生物	単位数	2	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 総合キャリアコース						
教科書	数研出版 改訂版 生物  ※2年次の教科書を引き続き使用		副 教 材	数研出版 リードLight ノート 生物  ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目 の 概 要	1年次の「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を2年次より更に広範に取り扱い、それらに対する興味を持って生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。また、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。観察や実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。			評価 の 観 点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価 方 法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授 業 内 容	1 学期 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答  2 学期 第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化			学 習 方 法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 家庭での復習を毎回怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。 些細なことでも気になったことは調べ、確認することで知識の定着を図る。		
				備 考			
	3 学期 第9章 生物の系統						

教科	理科	科目	生物	単位数	3	学年	3
学科 ・ レーン	普通科 看護医療進学コース						
教科書	数研 改訂版 生物 ※2年次の教科書を引き続き使用		副 教 材	・数研出版 リードα 生物基礎+生物 ※2年次の副教材を引き続き使用			
科目 の 概 要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。 適宜、共通テストを中心とした入試問題の演習を行い、問題を解く力を付けていく。			評 価 の 観 点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
	授 業 内 容	1 学期 第3章 遺伝情報の発現 第4節 バイオテクノロジー 第4章 生殖と発生 第5章 動物の反応と行動 第1節 ニューロンとその興奮 第2節 刺激の受容		評 価 方 法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
2 学期 第5章 動物の反応と行動 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動 第6章 植物の環境応答		学 習 方 法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。				
	3 学期 第7章 生物群集と生態系		備 考				

教科	理科	科目	(学) 理科特講	単位数	2	学年	3	
学科 ・ レーン	普通科 特進コース (文系)							
教科書	数研出版 改訂版 化学基礎 数研出版 改訂版 生物基礎 ※1年次の教科書を引き続き使用する。		副教材	数研出版 リードα 化学基礎+化学 数研出版 リードα 生物基礎+生物 ※1年次の副教材を引き続き使用 数研出版 チェック&演習 化学基礎 数研出版 チェック&演習 生物基礎				
科目の概要	化学基礎・生物基礎の内容について、それぞれ単元別に理解度を確認するテストや模擬試験問題などを用い、大学入試共通テスト問題を解く力を育成する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。			
				評価方法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。			
授業内容	化学基礎・生物基礎の学習内容について、問題集を用いて単元別の演習問題を解き、理解度の確認を行う。必要に応じて、教科書や問題集を用いて、補足的に復習授業を実施し、理解力を深める。 また、大学入試共通テストの過去問題を解き、得点力の確認を行う。			学習方法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。 実験については積極的に参加し、経験することで、知識を得るようにする。			
				備考				